

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100635		
法人名	医療法人蛭慈会		
事業所名	グループホームポータウン		
所在地	青森県青森市港町2丁目15-9		
自己評価作成日	令和4年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

青森市中心部に近い立地条件にあり、入居者のニーズを満たすための社会資源が多様にある環境です。現在は新型コロナウイルス感染予防のため、地域活動に制限がありますが、可能な限り参加し、地域の一員として活動しています。コロナ禍であっても、施設行事や日々のレクリエーションの充実を図り、笑顔で過ごせるよう工夫をしています。食事には特に力を入れており、青森の台所・問屋町から購入の新鮮な生魚からの調理や、週末は生本マグロ等のお刺身を提供しています。母体が医療機関であるため、身体状態の変化に24時間の連絡体制を確保しています。また、看護師による健康相談が週1回あり、いつもと違う気づきを気軽に相談できます。医療充実の特性を活かして看取り介護を行っており、福祉と医療が連携してケアすることで、最期まで安心して暮らせる体制を整えています。「地域の中で自分らしく生き生きと」を理念に掲げ、全職員が同じ目的に向かって日々介護をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で自分らしく生き生きと」を理念に掲げ、管理者・職員全員がサービスの役割を理解して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所したばかりでコロナ禍であるが、地域のねぶた祭への参加等を行い、地域の皆さんと交流をしたことは意義のあることであった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	責任者の思いだけで取り組まず、職員の理解を取り付け、地域のニーズ確認を行っている。また、認知症実践研修やその他の認知症の研修に参加しており、実習生も受け入れにも取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その地域に合ったサービスを提供するため、入居者や入居者のご家族、地域住民に対して、日々提供しているサービスを明らかにし、地域に開かれたサービスとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加し、地域包括支援センター職員等との連絡を密にとっている。新型コロナウイルス対策として、市からの接種券により、入居者・職員のワクチン接種をご家族同意のもとで行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の運営規定・重要事項説明書により、ご家族・職員に身体拘束について周知している。定期的な内部研修により、基礎的かつ適切な知識の普及と啓発につなげており、身体拘束をしないケアの実現に向けて、職員間で問題意識を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の運営規定・重要事項説明書により、ご家族・職員に周知している。内部研修により全職員が高齢者防止虐待について理解し、実践している。虐待があった時や発見した時の上司への報告義務について、職員は理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する内部研修を行い、全職員が成年後見制度や日常生活自立支援事業の理解を深めるよう、取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は入居者とご家族に事業所の理念や方針を説明し、事業を提供する上で必要な重要事項説明書、並びに契約に必要な介護保険利用での料金等を説明後、重要事項説明書にて契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設定している他、ご家族に手紙・画像を郵送し、それに対する返信をしていただき、不満な事・意見を把握しており、全職員に周知して対応している。また、定期的にご家族への新聞を発行し、意見が出しやすいように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に関われるカンファレンスで職員から意見を聞き、反映させる仕組みを整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の毎日の勤務状況を把握して、法律に基づいて労働できるように体制を整えている。定期的に健康診断を行い、助言して職員の健康増進に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量や行っているケアの実際を把握している。年間研修計画を作成して職員を受講させ、報告書を作成させている。内部に指導者を確保して、仕事の中で助言・指導できる体制ができている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で顔の見える交流は困難な状況が続いているが、電話での情報交換や連携は活発に行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護サービス開始時、直接本人と会話して観察・アセスメントを行い、ニーズを確認している。また、ご本人の要望や不安等を各職員が傾聴し、それに沿って援助を開始しており、職員同士が話し合い、情報共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時はご自宅・病院等へ伺い、今まで経験したこともない深刻な課題に直面しているご家族と面談し、コミュニケーションを図っている。また、精神的負担がなく、安心できるように傾聴、対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの開始の際はご本人・ご家族と面談し、何らかの困り事を抱えて困惑している相手を目の前にしても、焦らず、解決に向けた道筋を見失わず、どんな訴えであってもまずは親身にかつ冷静に耳を傾けてる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を観察して趣味や特技等を把握し、会話の中から情報を得て、入居者様と生活を共にする努力をしている。茶碗拭き・洗濯物たたみ等、手伝い事を一緒にやり、行動の共通点を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や写真により、入居者様の現状報告を行い、要望や希望等を返信していただいている。コロナ禍の中でご家族の要望により、ドア越しの面会を行っている。ご本人の要望があれば、施設の電話によりご家族と会話をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の友人等、以前付き合いがあった人からの手紙を渡し、電話連絡の取り次ぎ等に対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分だけで対応しようとせず、他の他職員にも周知して会議等で議題にし、スタッフ全員で入居者様同士の関係の情報を共有している。また、入居者様間でトラブルが起きた時は、職員が間に入って双方を傾聴し、対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の実績はないが、入居時に重要事項説明書で、退去後においても自宅や地域で生活を継続できるように相談援助を行う旨、説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に入居者様から希望を聴取して、介護において大切とされる本人の意思や要望、気持ちに応じている。本人だけではなくご家族からも、参考として、昔からの希望・意向を聞いており、職員全体で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から昔の話を聴取している他、ご家族・関係者から情報収集を行い、今までの生活歴等を把握している。また、できる事を見つけて大切に、今ある力を最大限に活かせるようにお手伝いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察やご本人からの言葉により、一人ひとり固有の多様な生活パターンを把握している。その生活の在り方から、ご本人ができる事を職員が話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別ケアの提供のため、介護計画はチームメンバー間で共有できる内容となっている。入居者様への介護について、チームメンバーの誰が実施しても、実践の内容と方法にバラつきが出ないよう、作成・実践をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子・身体状況を具体的に記録し、日々の記録により、職員間で周知・共有をしている。また、実践を記録して会議等で話し合い、介助の方向性を職員全員が認識している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況により、暮らしの援助をするために決まりきった取り組みではなく、その時その時に応じて入居者様に最善のケアを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議を開催して、地域包括支援センターや各町会等に、日常や行事の様子、内部・外部研修等の報告を行い、事業内容の理解を深めていただくと共に、地域との関係強化に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、入居者様・ご家族に希望する医療機関の受診を勧めると共に、かかりつけ医の受診支援の説明を行っている。また、医療機関との連携の重要性を理解していただき、納得して受診していただいている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問診療や健康相談にて、医師や看護師より診察・助言・相談をしていただき、日常での入居者様の変化や気づき等は、その都度看護師に連絡・報告・相談を行い、入居者様の体調変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入居前、医療機関に入院している際に、医療関係者と連携して、入居者様の情報を共有・相談し、面談を行っている。また、退院に向けて、ご家族も含めた話し合いを行い、入居者様の入居の際にスムーズに移行できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族に対し、医師が医学的知見に基づき、回復の見込みのないと判断した方に対して、入居者様またはご家族の同意を得て看取りの介護計画を作成し、看取り介護を受けることができること、また、その請求時の加算について説明をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変・事故発生時に備えて、緊急時の連絡・対応マニュアルを作成し、全職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に夜間火災を想定して避難訓練を行っている。また、消火・通報・避難誘導について具体的な避難訓練要綱を作成し、職員が理解しており、全職員参加の避難訓練を行っている。内部研修で非常災害時対策の講義を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報収集の目的、個人情報の利用目的を告げており、入居者様の立場に立った自立支援に貢献できるよう、プランを検討している。また、個人の尊厳まで立ち入った、行き過ぎのヒアリングは行っていない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様を個別援助の過程に積極的に参加させ、援助者は専門的知見から支援している。入居者様に必要な情報を、適切な方法・わかりやすい表現を用いて提供し、入居者様の意見・意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本人のペースで介護に必要なその人らしさを尊重したケアを行い、その人の表面的な性格や習慣、趣味、嗜好を尊重するだけでなく、これまでその人が歩んできた背景を理解するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様本人が衣類を選択したり、おしゃれを決定できるように援助している。衣類の乱れがある時は尊厳保持を忘れず、修正している。また、希望に応じて、訪問の床屋さんにより定期的に散髪・整容をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者様の好み等を考慮しながら、更に高齢者に食べやすい物を選択して、手作りによる調理を提供している。また、入居者様の意思により、職員と共に皿洗いや茶碗拭き等の後片付けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎に入居者様の食事量・水分摂取量を記録し、おやつ時等の水分量も記録している。食事量が低下する等の変化が見られる時は、嚥下状態も観察して食事形態を変えたり、食器や箸等の形態を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各入居者様の口腔ケアに努め、入れ歯を洗浄している。援助が必要な方には介助にて行っているが、できるだけ個々の力を引き出すよう、できる所はご自分で行っていただき、洗い残し等の仕上げ磨きを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様個々の排泄状況を把握して、トイレ誘導が必要な入居者様にはその都度訴えを聞き、表情を観察して誘導している。排泄動作はできる所はご自分で行っていただいている。また、オムツ等を必要とする方については、職員間で十分に協議している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様には日々の運動の勧めを心がけ、水分摂取量にも十分に気をつけている。排泄チェック表を利用して、入居者様個々の排便を記録し、入居者様本人の言葉からも排泄の有無を確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様の入浴は日にち・時間等を施設側で決めるのではなく、入居者様本人の意向により行い、洗身・入浴のパターン等もご本人の希望により行っている。入浴拒否の時は無理に勧めず、あまりに続くようであれば十分に声がけを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠らず行動している入居者様には、日中努めて体を動かすことを勧め、昼夜逆転のないようにリズム作りに取り組んでいる。眠剤を服用している入居者様には医療機関と連携し、十分に観察を行って行動に注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様それぞれの現病・既往歴から処方されている薬について、職員全員が把握し、個々の服薬の仕方も職員間で共有している。援助の必要な方には介助をしており、誤薬・飲み忘れがないよう、職員間のチェック体制を確立している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園作り・俳句・生け花等、入居者様それぞれの趣味に合わせ、生きがいを見出す場を提供している。衣類をたたんだり、茶碗を洗って拭く等、手伝い事は無理強いせず、入居者様に応じてお願いし、暮らしに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出規制があるものの、天気の良い日はコロナ感染対策を行い、施設の周りを散策したり、バルコニーで日光浴を楽しんでいる。ドライブ行事を企画し、車窓を楽しむ機会を作り、人がいない場所では車から降りて景色を楽しむこともある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でも自宅での生活が継続できるように、希望の入居者はお金を持っている。コロナ禍で使用する機会はないが、持っていることで心が豊であることを感じる。コロナウイルスが終息したら、外出や買い物の機会をたくさん企画したいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時や入居者様から「ご家族の声が聞きたい」等の希望があった時は、施設の固定電話を使用して、連絡及び会話ができるように支援している。また、その会話はプライバシーのため、他の入居者様には知られないように工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事を感じさせる施設内の装飾やポスター等、職員手作りの物をホール等に飾り、家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。照明等により、施設内は明る過ぎず、また、暗くならないように調整している。ホール内等の物品の整理は常に行い、乱雑にならないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（ホール）にテーブルを2台配置し、大テレビの前に3人掛けソファを1つ設置している他、小上がり（畳）もある。入居者様全員が揃っても十分の広さが保たれている。また、食事の際等、テーブルに座る時は気心の知れた方同士の席となるように配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室内には、誕生日にいただいた写真付きのカードやご家族の写真等を飾っている。また、職員の作った写真ポスターを貼っている方もおり、入居者様と共に居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には全壁に手すりを取り付け、入居者様が暮らしやすい環境作りに取り組んでいる。居室入口には入居者様の氏名プレートを貼り、個々にわかりやすい表示となっている。		